

リンネが学位を取得したヘルダーラント大学 (大場秀章)

Hideaki OHBA: Gelderland University of Harderwijk and Linnaeus

リンネの生涯はふつう6期に区分される (Stearn 1957) が、彼の生物・医学者としての生涯を決定するうえで最も重要だったと見做されているのは、大半がオランダにあったその第3期 (1735年から1738年) である。オランダ滞在の当初の目的は医学博士の学位を取得することであったが、実際にはそればかりでなく学位取得前後に幾多の知己を得てオランダに留まり、主として植物学の研鑽に励むのだった (Boerman 1979)。リンネが学位を取得したのはハルダーウィック (Harderwijk) にあったヘルダーラント大学である。彼はそこでわずか1週間で学位を取得した。なぜリンネはこの大学で学位を取得しようとしたのか、また現在の日本の制度からみるとあまりにも短期の学位取得にはなにか特別の理由があるのか気になるところである。そこでかつてこの大学があったハルダーウィックを訪ね、いまはないその大学についての見聞を収集してみた。また当時の学位取得についても調べてみた。

ハルダーウィック

海を埋め立てて陸地を広げたといわれるオランダだが、そうした干拓の中でもとくに著名なのはゾイデル海の干拓である。同海がワッデン海と接する辺りのオスターラント (Osterland) とハーリングェン (Harlingen) 間に堰堤を築くことでゾイデル海は湖水化しアイセル湖となった。まだ干拓が始められる以前の海岸線はアムステルダム東に位置する交通の要所、アメルスフォールト (Amersfoort) からズボレ (Zwolle) に沿って弓状に続いていた。ヘルダーラント (Gelderland) 州に属するハルダーウィックは、ちょうどその両市の中間に位置し、中世以来交易を通じて発達した港町で、1230年にはハンザ同盟に加っている。

1647年7月1日にヘルダーラント州政府は、ハルダーウィックの、大学に準じた上級の教育制度をもつ一種のラテン語学校を大学に格上げする決定を下し、ハルダーウィック地区

はそれに8000ギルダーの補助金を出すことを決定した。こうしてできたのがヘルダーラント大学 (De Gelderse Academie, 英語名は The Gelderland Academy) であった。

公式の開学は1648年4月12日で、当日は教会での礼拝、荘厳な行進と晩餐会を含む式典が執り行われた。しかし開学時の教授はわずか8名という、当時としても最小規模の大学だった。1年後に大学に植物園 (Hortus Botanicus) が開設され、医学教育が加わった。

ヘルダーラント大学はこうして順調にスタートを切ったかに思われたが、その後幾多の問題に直面することになる。まず、ヘルダーラント州の1地区であるナイメヘンは分担金の支払いを拒否したばかりか、同様の格上げによってナイメヘンにも大学を創ってしまった。当時のオランダではヘルダーラント州だけが独立性の高い3つのもの地区からなっていた。こうした地区間の対立はこと大学の問題だけに限らなかった。

ハルダーウィックは人口わずか3500人ほどに過ぎなかったので、大学に集まってきた学生が市民に様々な不安や危害を含め影響を及ぼした。オランダの制海権をめぐる第3次蘭英戦争が勃発した1672年は、蘭仏戦争も加わるなど、社会は大混乱に直面し、多くの教授と学生が大学を去った。図書は安全裡にアムステルダムの北に位置する北オランダのホーンに疎開させることができたが、地区からの補助金は途絶え、教授の欠員補充ができないまま、1675年に大学は閉鎖を余儀なくされた。

オランダとフランス、長じてはフランスと神聖ローマ帝国との間の戦争がナイメヘンの和約をもって1678・79年に解決する。時代は絶対王権の確立による繁栄へと向うが、1681年にヘルダーラント州の3地区のひとつであるウルウェ (Veluwe) が分担金の支払いを再開したのを皮切りに、1692年にヘルダーラント大学の閉鎖が解かれたのである。

1648年の創設から1811年の閉鎖までの163年間におよそ4000人がこの大学の学位申請者名簿に登録した。ここで学位を得た著名な人

物の中には医者・植物学者として名高いブルーハーフェ (Herman Boerhaave, 1693年取得) がいるが、なんといっても最大の著名人はリンネである。

リンネに触れる前にその後の大学史を簡単に記しておく。時代はナポレオンが活躍する1793年、すなわちフランス共和国2年にフランスはオランダに宣戦する。これによりオランダは再び国情不安定となり社会混乱に陥るが、1795年には一種の共和国革命が起き、国名をバタヴィア共和国と改名した。

この革命によりヘルダーラント大学はヘルダーラント州からの財政的支援を失った。そうした中で1798年には創立150年を迎えたが、州政府からは一慮だにされなかったらしい。一方、ナポレオンは大学にたいしては好意的であったといわれている。だが、フランスのオランダ併合に関連したオランダの教育に関する調査で、ヘルダーラント大学は好意的に評価されたにもかかわらず、1811年10月22日に閉鎖されたのである。

ヘルダーラント大学の学位方式

リンネの時代のオランダ (オランダ連合) は7つの半ば独立した州 (state, 以下地方ということもある) からなっていた。ゼーランドを除く全州に大学があった。最も古いのが1572年に創設されたホラント州のライデン大学である。なおライデン大学はホラント州だけでなくゼーランド州も関係を有していた。

ヘルダーラント大学は、神学部、法学部、文学・哲学部、後に加わった医学部を合わせ、4学部からなる、小さな大学だったが、教授陣がそれなり充実していたといわれている。

リンネがヘルダーラント大学で学位を取得しようと考えた大きな理由は、在学しなくとも申請すれば学位試験を受けることができたことにある。わかり易くいえば課程博士だけでなく、日本でいう論文博士の制度も併せもっていたのである。在学せずに学位を取得できる制度は、職についていない外国の若者にとって、取得学位をもって迅速に帰国できるため、職を得る上で有利だったといわれる (Veendorp and Baas Becking 1938)。ウブサラ大学でのリンネのライバルであった Nils Rosén や父の友人の Johan Rothman など多く

のスウェーデン人がヘルダーラント大学で学位を取得していた。また、学友のために催す祝宴経費を払う必要がないなど、経費もあまりかからなかったことも大方の留学生にとっては魅力のひとつであったろう。

外国ばかりではなく、オランダの他大学に籍をおく学生もここで学位を取得することがあったといわれている。先に書いた学生名簿 *Album Studiosorum* には7000人の名前が見出せるが、*Album Promotorum* すなわち学位申請者名簿にも4000人が登録している。このことはかなりの数の学生がここで学位を取得していたことを示している。

リンネが1週間で学位を手にしたと書くと、教授陣の質も問題にされそうであるが、当時の大学としてヘルダーラント大学が格段レベルが低かったということではなく、後述のようにリンネの時代も著名な教授がいた。

リンネの学位取得

リンネは1735年6月2日 (当時の暦法による。新暦法では6月13日) に船でアムステルダムに着いている。この頃スウェーデンからオランダへの直行便はなかった。1735年4月26日に、この時代普通に行われていたようにヘルシンボリから北ドイツのリューベック湾口のトラヴェミュンデに船で着き、そこから陸路をリューベックを経てハンブルクへと向かった。5月17日 (新暦法では5月28日) にハンブルクのアルトナから船でゾイデル海を通ってアムステルダムに向かったのだった。およそ半月の航海であるが、これは当時としては速かった方だといわれている。

アムステルダムに着いて数日後の6月6日 (新、6月17日) 午前3時にリンネはヘルダーウィックに到着した。自ら大学に赴き学生登録を行った (*Album Studiosorum*, すなわち学生名簿に記入した)。翌日、学士試験 (学位候補者試験) にパスした。そして19日 (以降は新暦にて記す) にヨハン・デ・ホルター (Johan de Gorter) に自分が以前書いた論文を見せ、ホルターから学位論文印刷の指示 (*fiat*) を得た。次の日は口述発表と植物の実地試験を受け、午後は地元の印刷屋 H. J. Rampen に行き論文を印刷した。23日に24ページの論文、*Hypothesis nova de februm inter-*

mittentium causa にもとづいて、公式の試験 (promotion) を受けた。Stafleu (1971) は試験はまったく形式的なものだったという Boerman (1957) の見方を引用している。そして25日にはそこからアムステルダムに戻ったのである。

さてリンネがホルターの名前で印刷した論文 (dissertatio) *Hypothesis nova de februm intermittentium causa* は和訳するなら、“間欠熱の原因についての新仮説”，と題するものである。後にリンネの学生は *disertatio* としてリンネの研究論文を出版しているが、リンネ自身の学位論文は、その内容からリンネが執筆したことが明らかである。ちなみに Garnham (1978) はその英訳を行っている。

ヘルダーラント大学の学位はどの程度に評価されていたのだろうか。ライデン大学ほどではないにしても、過去にブルハーフェのような大物がここで学位を得ていることもあり、オランダでの評価はそう悪いものではなく、リンネも学位取得を喜んだといわれている (Stafleu 1971)。なお、リンネは1728年9月にルンドの大学からアップサラに移り、ルドッベク (Olof Rudbeck the Younger) に指導を受けるが、その助手だったのが先に述べた Nils Rosén だった。彼は1730年9月にヘルダーラント大学で学位を取得し、1732年帰国した。これによりリンネはデモンストレーターとしての職を失うことになったが、そのことがリンネにラブランド探検を決心させる契機となった。

Gorter 親子

ホルター教授はライデン大学でブルハーフェに学んだ逸材で、1725年にヘルダーラント大学の医学・植物学教授として赴任した。

プロテスタントの町、ライデンの当時の大学は、最初アリストテレス派の哲学の影響下にあったが、17世紀前半に、数学的 (幾何学) ならびに自然学 (機械論) 的性質によって自然現象が説明できると主張した、ブルターニュ生まれで一時期オランダに定住した哲学者デカルトの科学思想の影響を強く受けることになった。デカルトの影響は生物学や医学の分野にも及んだ。とくにイギリスの医学者・生理学者ハーヴィ (William Harvey) の血液循

環の理論は自然の機械論的な説明の典型とされ、自然史に対しても理論的要素の導入を求めたのである。

この風潮を変えたのは、デカルト主義の偉大なる反対者であるニュートンの経験主義である。18世紀にはライデン大学では実証性を重んじる生理学や解剖学などを基礎に据えた教育が行なわれ、医学、植物学、化学の教授であり、学長でもあったブルハーフェはそうした教育の中心人物となっていた (Berkel 1985)。ホルターの師であるブルハーフェはライデンで神学と哲学を学んだ後、ヘルダーラント大学で学位を取得している。彼は医学の分野では解剖劇場 (*Theatrum anatomicum*) を通じて広く知られているが、1724年に熱の正体をカロリック (熱素) と呼ぶ、重さのない元素とする説を唱えたことでも有名である。またライデン大学植物園で栽培される植物を分類・記述した *Index Plantarum, quae in Horto Academico Lugduno-Batavo reperiuntur* (1710年)、*Historia Plantarum, quae in Horto Academico Lugduni Batavorum crescunt* (1720・27年) を著すなど、植物分類学の発展にも貢献した。リンネが学位を取得した1735年には、1668年生まれ of ブルハーフェは67歳になっていたが、リンネの分類学者としての前途に多大な影響を与えた。しかし病臥中であつた彼は3年後の1738年に没した。

ホルターは当時としては最先端の医学教育ができる人物だったといつてよい。ホルターは親子してヘルダーラント大学で医学を教えていた。リンネが論文を提出したのは父の Johannes de (あるいは Jan van) Gorter (1689–1762) である。しかし、1754年に女帝エリザヴェータ・ペトロヴナナの侍医としてロシアに招聘され、医学・植物学の教授となった子の David de Gorter (1717–1783) とともに大学を去るが、4年後には再びオランダに戻った (Bots en M. Evers 1998)。父の著作として *Exercitationes medicae quatuor* (1737年、アムステルダム) が Pritzel (1872) の3479として掲載されている。子の David はリンネの *Elementa botanica* を解説した *Elementa botanica methodo cl. Linnaei accommodata atque in usum auditorum evulgata* を1749年に

ハルダーウィックで出版している。David はまた後年、オランダ、ベルギーの植物相を研究し、いくつか著作を残している。

学位取得後のリンネ

リンネは学位を授与された後、25日にアムステルダムに戻った。28日にはユトレヒトを訪ねたが印象もないままにそこを去り、ライデンに赴いた。ライデンではブルハーフェとグロノヴィウス (Johan Frederik Gronovius) を訪ねた。リンネは著名な2人の学者に深い感銘を与えたといわれている。リンネは *Systema naturae* の草稿を Gronovius にみせた。感銘を受けた Gronovius は、ただちに友人の Isaac Lawson とともに経費を出し、それをライデンで出版させた。ブルハーフェはアムステルダムのブルマン (Johannes Burman) にリンネを紹介した。

実はハルダーウィックに向かう前のアムステルダム到着後の6月4日(旧)にリンネはブルマン教授を訪ねている。しかしこのときは挨拶以上のものは得られなかったといわれている。ブルハーフェの紹介状をもってアムステルダムに戻ったリンネはさっそくブルマン教授を訪ねた。今度は好意をもってリンネは迎えられただけでなく、教授のもとに滞在し、生活の面倒さえみてもらえた。さらに、*Bibliotheca botanica* と *Fundamenta botanica* の両書をブルマンの支援でアムステルダムで出版することができた。

こうしてリンネはブルハーフェを介してアムステルダムとライデンの2つの学者グループの支援を受けることができたが、さらにブルハーフェは彼のクライアントのひとりで、アムステルダムの裕福な銀行家である George Clifford (1681–1760) にリンネを侍医として雇い、ハルテキャンプの邸宅で彼に研究の機会を与えるよう進言した。このことが後のリンネにとっていかに重要であったかはすでに書いた (大場 2005)。

リンネが学位取得を急いだ事情

リンネが学位取得を急いだ理由は Sara Lisa との結婚のためだといわれている。リンネは1734年のクリスマス時に、裕福な町医者 Johannes Moraeus の娘の Sara Elisabeth (Lisa)

Moraea に会った。彼女の父 Johannes はライデンとパリで勉学し学位を取得していた。Sara Lisa はその時18歳であったが、リンネは彼女の父との間に、向こう3年以内にオランダで学位を取得して帰国した後に彼女と結婚するという約束をした。学位取得を急いだのもそのためといわれている。性急な学位取得はこうした事情によるものであるが、リンネはこの3年の間にオランダの著名な植物学者のもとでさらなる研鑽を積み、また著名な学者との面識を深め将来に備えようと考えていたものと思われる。

オランダ滞在中にリンネは南米のスリナムや他のオランダの植民地への探検調査に誘われるがそれを断っている。リンネは Sara Lisa とは婚約期限が過ぎ、彼女が婚約に拘束されない状態になるのを恐れていた (Goerke 1989)。事実、色々な言動からしてリンネは

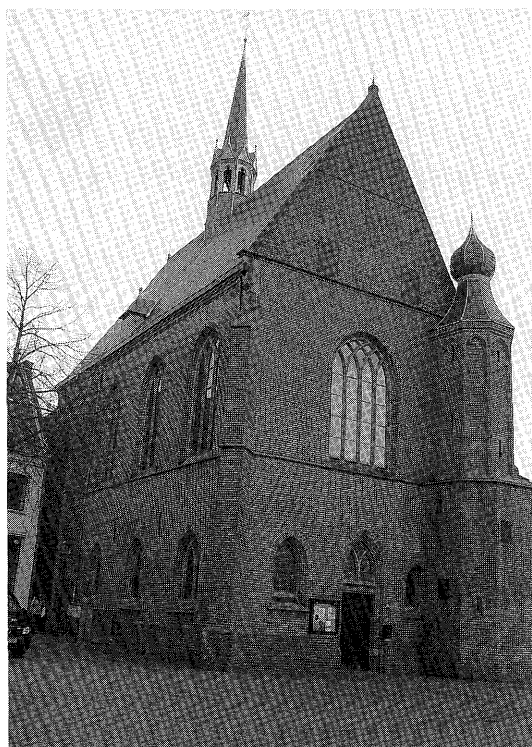


図1. 大学を中心となっていた尖塔をもつ教会式の建物。

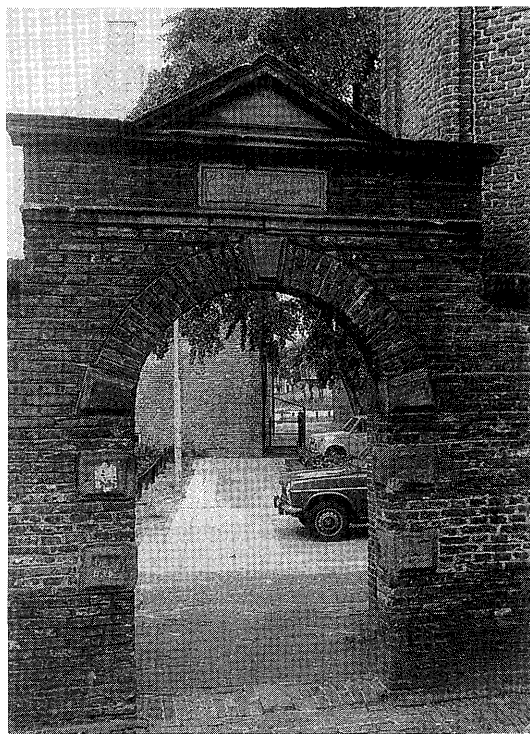


図2. 大学門 (Academiepoortje). de Jong (1998) による。

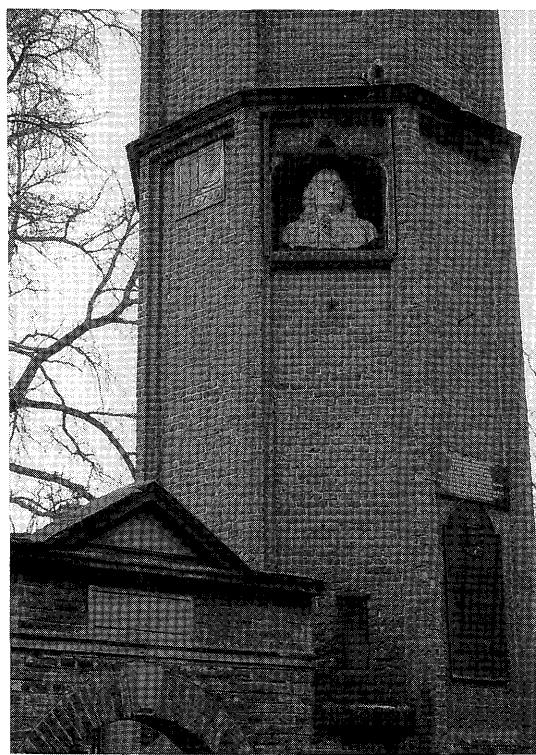


図3. 大学門の横にあるリンネ塔（かつては大学塔といった）。紅色の強い煉瓦造りで、中ほどにリンネの胸像が設置されていた。左側に大学門の上部が見える。

1737年に *Hortus cliffortianus* が印刷に廻されると、急に帰国を急いだように見受けられる。しかし、1738年のイースターの頃、リンネは一種の病原菌による高熱を病み、約2ヶ月もハルテキャンプでの静養を余儀なくされた。このときリンネを治療したのは、後にマリア・テレジアの侍医となる Gerhard van Swieten である。帰国を焦るリンネはせっかくのパリ滞在も2ヶ月足らずで、ルーアンから帰国の途に着く。1738年9月にスウェーデンに無事に帰国したリンネは、1739年9月に Sara Lisa と結婚した。

ヘルダーラント大学の足跡を訪ねる

2005年3月24日、ハルダーウィックにヘルダーラント大学の跡を訪ねてみた。アムステルダムから北のフロニンゲンに向かって鉄道で進むと、ユトレヒト方面への分岐点とな

るアメルスフォルトに着く。ハルダーウィックはそこからしばらくの距離である。鉄道でもいけるが、道路交通網も発達しており、車での訪問にも便利である。

ハルダーウィックは典型的な地方都市で旧市街を取り囲むように発展した新市街をもっている。旧市街の目抜き通りには商店が櫛歯し賑やかだった。ヘルダーラント大学創設400年を迎えた1998年に同大学の足跡などを探る調査が行われ、史跡が整備された。そのときにホームページ (<http://www.snama.nl/univhwijk/UnivOfHarderwijk.html>) が開設された。

大学があったのは旧市街の北東の外れである。大学の中心となっていた建物は尖塔をもつ教会式の建物である（図1）。建物は暗紅褐色の煉瓦造りで、身廊（nave）はやや急な傾斜の屋根をもつ建物である。教会建築とし

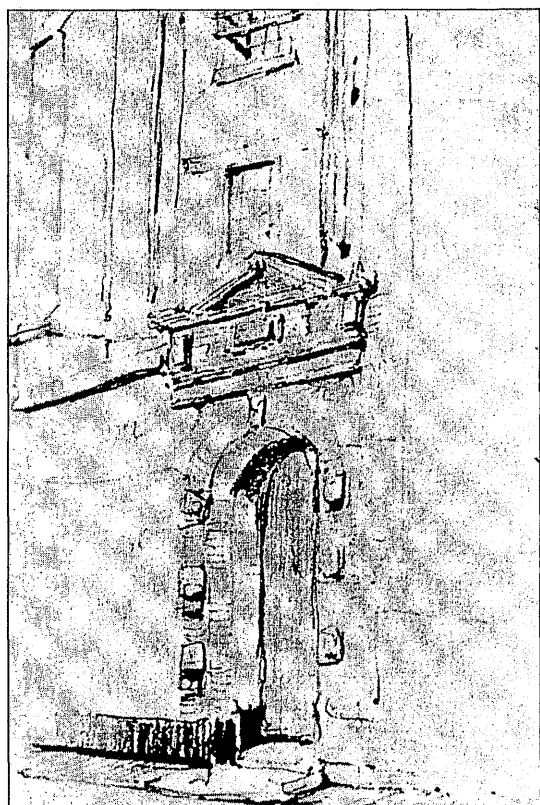


図4. 1863年頃描かれた大学門の図. 2階建ての回廊があり, 門はその一部であった.

ては異様で, 左右とも側廊 (aisle) を欠いている. この建物に続いて2階建ての教室風の建物があるが, 入り口の部分に MDCCLIV (1754年) の文字を認めることができる. この年がこの建物の建設年を表すのであれば, リンネがここで学位を取得した1735年以降の建築ということになる. 北側には六角形の搭状の建造物が続く. 採光性にすぐれたその建物は講義などに用いられていたものか.

教会様式の建物と道路を隔てて西側に Hortus Botanicus, すなわち植物園があった. 現在, 復元されているが, 栽培されている植物の選択はリンネ当時のものではない. この植物園はリンネ塔と呼ぶ塔の背後にある保護された一角を占める. 道路に面して大学門 (Academiepoortje) (図2) があり, その横に



図5. かつての植物園の一角にあるイチヨウ. この植物園での栽培植物については1709年に Westenberg が著した *Viridarii academiae harderovici catalogus* があり, 後の Gorter 親子の時代に至るまで医学・植物学の実地教育に活用されていた. リンネも見学したと思われる.

リンネ塔 (かつては大学塔といった) がある (図3). 紅色の強い煉瓦造りで, 中ほどにリンネの胸像が安置されていた. この胸像はクリフォート邸跡にあったものと同じ母型から作られたものであろう. 胸像のある面の右側の面にリンネについてのオランダ語による解説板, その下方にはブルハーフェのレリーフ付きの顕彰碑文が嵌め込まれている.

現在の大学門は植物園への単なる出入り口に過ぎないが, 1863年頃描かれた図 (図4) から, そこには2階建ての回廊があり, 門はその一部であったと考えられる.

植物園については, 1709年に Ernesti Wilhelmi Westenbergii が著した *Viridarii*

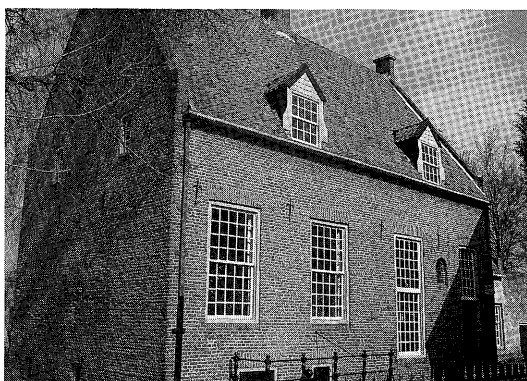


図6. イチョウの西側にあるかつての解剖学教場の建物の一部。現在は子供たちのための自然・環境教育施設となっている。

academiae harderovici catalogus があり、後の Gorter 親子の時代に至るまで医学・植物学の実地教育に活用されていた。古くからここにある樹木としてイチョウとプラタナスがある。プラタナスは幹の上部が切り取られていて、萌芽枝が叢生していた。イチョウは直立した幹をもち、ヨーロッパのいくつかの大学植物園にみられる雌雄株を接木したような形跡はない。

イチョウはリンネによって1771年に *Mantissa plantarum altera* で学界に紹介されたが、そのもとになったのはケンプファーの『廻国奇観』の図と記述で、リンネ自身でここでイチョウをみたとは考えられない。リンネ以降に栽植されたものである。そのイチョウのさらに西側にかつての解剖学教場だった建物があり、現在は子供たちのための自然・環境教育施設となっている（図5, 6）。

このように僅かな建物や遺構からかつてのヘルダーラント大学の片鱗を知ることができる。大学跡からは離れてはいるが、Stadsmuseum Harderwijk あるいは Voorheen Veluws Museum と呼ぶ、州立博物館があり、地階の半分近くをヘルダーラント大学の展示に当てていた。リンネが学位審査を受けた当時の、上下に座をもつ討論壇、ホルターの肖像画、リンネの学位論文（表紙、図7）などをここで見るができる。

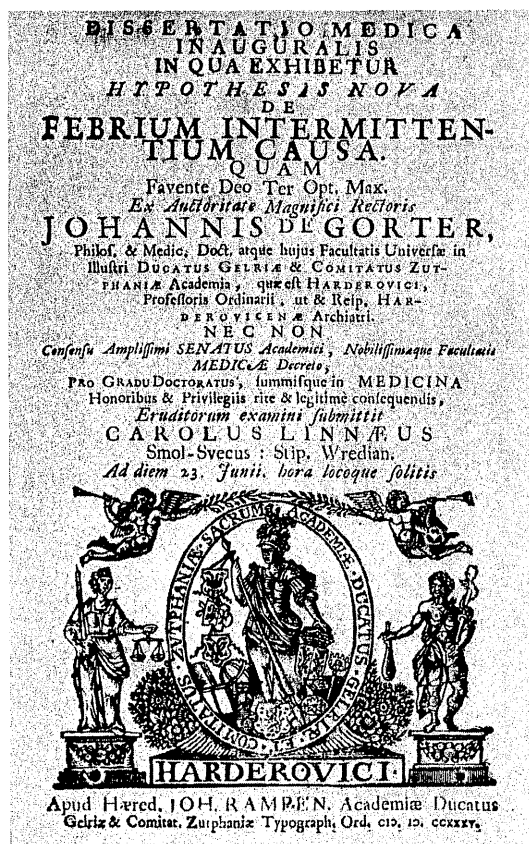


図7. リンネの学位論文の表紙。

ハルダーウィック市にとってリンネは史上最も重要な意味をもつ人物として扱われているといつてよい。残存する遺物は少ないとはいえ、機会があれば一度は訪問されることをお勧めしたい。

引用文献

- Berkel K. van 1985. In het voetspoor van Stevin. Geschiedenis van de natuurwetenschap in nederland 1580—1940. Boom Meppel, Amsterdam. (K. ファン・ベルケル著、塚原東吾訳、2000、オランダ科学史。朝倉書店)
- Boerman A. J. 1957. Linnaeus becomes candidatus medicinae at Harderwijk. Svenska Linné-Sällskaps Årsskrift 39/40: 33—47.
- 1979. Linnaeus and the scientific relations between Holland and Sweden. Svenska Linné-Sällskaps Årsskrift 1978: 43—56.

- Bots en M. Evers J. A. H. 1998. De Gelderse Academie in het universitaire landschap van de Republiek. In: Mulder en Willem Frijhoff van Like (ed.), Een Onderschatte Universiteit—350 jaar Gelderse Academie in Harderwijk, 43–59. De Harderwijk Reeks, Harderwijk.
- Garnham P. C. C. 1978. Linnaeus's thesis on malaria in Sweden. Svenska Linné-Sällskapets Årsskrift 1978: 80–97.
- Goerke H. 1989. Carl von Linné. Arzt, Naturforscher, Systematiker. Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft mbH, Stuttgart. (ハインツ・ゲールケ著, 梶田昭訳, 1994, カール・フォン・リンネ, 博品社, 東京).
- Jong N. C. R. de 1998. De gebouwen van de Gelderse Academie. In: Mulder en Willem Frijhoff, van Like (ed.), Een Onderschatte Universiteit—350 jaar Gelderse Academie in Harderwijk, 136–156. De Harderwijk Reeks, Harderwijk.
- 大場秀章. 2005. リンネゆかりの旧 Clifford 邸を訪ねる. 植物研究雑誌 80: 315–321.
- Pritzel G. A. 1872. Thesaurus Literaturae Botanicae, ed. novam reformatam. F. A. Brockhaus, Lipsiae.
- Stafleu F. A. 1971. Linnaeus and the Linnaeans. The spreading of their ideas in systematic botany, 1735–1789. IAPT, Utrecht.
- Stearn W. T. 1957. An introduction to the Species Plantarum and cognate botanical works of Carl Linnaeus. The Ray Society, London.
- Veendorp H. and Baas Becking L. G. M. 1938. Hortus academicus Lugduno Batavus, 1587–1937. Reprinted in 1990 in Rijksherbarium/Hortus Botanicus, Leiden.
- Wittop Koning D. A. 1985. Harderwijker Boekdrukkers. De Graaf Publishers, Nieuwkoop. <http://www.snama.nl/univhwijk/UnivOfHarderwijk.html>.

Heinai SHIBUICHI^a and Syo KUROKAWA^b: Materials for the Distribution of Lichens in Japan (14)

地衣類分布資料 (14) (四分一平内^a, 黒川 遼^b)

Cladonia trassii Ahti

In TNS, a few specimens annotated as *Cladonia trassii* Ahti (Fig. 1) by Ahti are preserved. *Cladonia trassii* was described by Ahti (1998) from Sweden and was reported also from Russia, Alaska, Canada, Greenland and Tierra del Fuego in South America. Morphologically it resembles *C. stricta*, an arctic species, from which it is distinguished by the presence of narrowly scyphose terminal branchlets of the podetia, as suggested by Ahti (1998). It should be noted here that most specimens reported as *C. lepidota* f. *cerasphora* by Asahina (1950, 1971) are identical with the present species. In Japan, *C. trassii* is rather common in the subalpine coniferous forests in Hokkaido and Honshu, extending the range south to Prov. Awa in Shikoku. All specimens cited below are preserved in TNS.

Specimens examined: JAPAN. Hokkaido. Prov. Ishikari: Mt. Chubetsu, S. Kurokawa 72010, 72011; the same, H. Koidzumi 71989; Mt. Tomuraushi, H. Shibuichi 9585. Honshu. Prov. Mutsu: Mt. Kamabuse,

S. Kurokawa 56184. Prov. Rikuzen: Mt. Zao, S. Murai s. n. Prov. Uzen: Mt. Hiuchidake, M. Togahshi 5089, 5093. Prov. Etchu: Mt. Kaminotake, Y. Asahina s. n. (3 packets). Prov. Shinano: Mt. Shirouma, Y. Asahina. Prov. Mikawa: Mt. Horaiji, Y. Asahina s. n.. Shikoku. Prov. Awa: Kamigame-cho, T. Inobe 350, 354.

Literature cited

- Ahti T. 1998. A revision of *Cladonia stricta*. Fol. Cryptog. Estonica 32: 5–8.
- Asahina Y. 1950. Lichens of Japan I. Genus *Cladonia*. 255 pp., 18 plates. Hirokawa, Tokyo.
- 1971. Atlas of Japanese Cladoniae. 27 plates. Res. Inst. Natural Resources, Tokyo.

Cladonia trassii (ミヤママダラゴケ, 新称) はスエーデンから記載され, ロシア, アラスカ, カナダ, グリーンランドおよび南米のティエラデルフェゴからも知られている。子柄の髄層が黒変するため, 黒い斑点が子柄側面で明らかに観察される点で, 北半球の極地に分布する *C. stricta* に似ているが, 子柄の最先端の分枝が狭い盃を作るのでそれと区別される。朝比奈泰彦氏が *C. lepidota* f. *cerasphora* とした大部分の標本は本種と同定され, 日本では北海道から四国まで分布している。